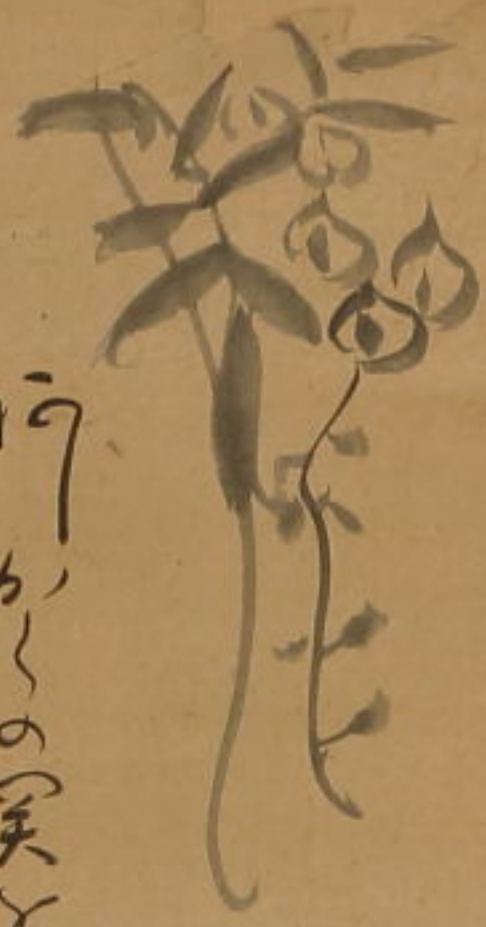


小牧中山
十圍子に草のりく
樹の蒼うら



何かくの笑と踊る
松小羨猿いささ果
たしくもうら



右秋意唐棠北居士四鶴中之吟

深木
夕夕や遊こき
人乃
逢飯時分

大磁
鶏くちや
必くは虎かぶ



年月七
松くぬやさ水
翠ひく秋の風



乃月やおの
巻乃葉つ之舟

系磔書

炎徳、ふあ用比
とくふ
翠ひく雪鞋
う金の
すさげ

一夕相如の雪がくさくさ
東坡の子孫を想ふあふあ
やわ白落峰東の雪を
難波津や酒をひくへて
ふさふさ



小坂中山

十園子にまのりく
樹の蒼さる



何れかの実と跡
松小坂様いささか
たしむる

浄水

夕夕のまこと
人乃
途飯時を



大坂
鶴へかく
必くは虎かゝる



舟月七

松の海や水の
琴ひく秋の風



右林急唐棠北居士四鶴中之吟

系彙書

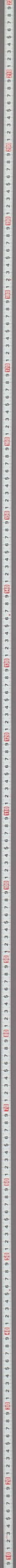
舟月やふの
管乃葉の舟



月夜、ふか
とく、ふか

翌日、ふか
うたの
すが

一夕羽の
東坡の子海と
リや自落
難波傳や
をひく
をひく





素
障
喜
字
句
二十八

素
障
喜
字
句





